

# 「製造現場×生成 AI」、世界に遅れる“日本の製造業” は変わるか？ 識者 7 人が激論

生成 AI を製造現場でどのように使えば良いのか——。いま巷では ChatGPT による驚異的なビジネスへの影響が話題になり、すでにさまざまな分野で応用への検討が始まっている。それは製造現場でも同様だ。とは言え、製造現場でどのように生成 AI を適用していけば良いのか、まだ見えないところも多い。今回、IMI(インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ)の理事長、西岡 靖之氏による司会の下、製造業の AI やデータ活用に詳しい識者 6 人が一堂に会し、生成 AI の課題やビジネス展開、将来性などについて熱い議論を交わした。

# 「製造現場×生成 AI」、世界に遅れる“日本の製造業” は変われるか？ 識者 7 人が激論(2/3)

## 製造現場むけ生成 AI の「2 つの事例」



AAC

代表取締役

浅香 忠満氏

製造現場のデジタル化に 40 年間ほど携わってきた AAC 代表取締役の浅香 忠満氏は、生成 AI を利用して、製造現場で活用できる生成 AI ナレッジシステム「AAC GPB (GenerativeAI Pretrained knowledge system and Brains)」を構築した。

社内のさまざまな技術情報などを AI モデルで学習させつつ、ChatGPT を用いて外部の公開情報をマージさせたことで、実用的かつ最適な AI システムとした。主に企画、設計、生産技術、品質保証、保守などの部門で使われ、93.6%の回答精度を弾き出している。

浅香氏は「たとえば『これまでにエンジンルームトラブルがあったら教えて下さい』と質問すると、設計課題、トラブルや品質管理の情報などから、具体的な回答を出してくれます。学習させていない情報でも、外部情報を基に答えてくれます」と説明する。

# 「製造現場×生成 AI」、世界に遅れる“日本の製造業” は変われるか？ 識者 7 人が激論(3/3)

## 【生成 AI の要約つき】生成 AI 活用の「未来」を語る

最後のまとめとして、生成 AI の登場で今後の製造業がどう変わっていくのか、その未来イメージなどについて各登壇者が発言した。

生成 AI による各氏の発言まとめ(詳しくは続きを参照ください)

浅香氏:生成 AI のマルチモーダル化で CAD 図面強化、ハプティクス・ロボットと連携し技能伝承可能、社内情報の有効活用が重要

-----

対して、浅香氏は「生成 AI がマルチモーダル化すれば、CAD 図面なども強化できるでしょう。また、体で覚える技能面は、体感が可能なハプティクス・デバイスや装着ロボットと生成 AI が連携することで、技術伝承以外に技能伝承にも使えるようになると思います。とにかく社内に眠る情報をモデルで学習させて、有効活用することが大切です」と力説する。